

## 自由な発想を学ぶということ

教育の世界において、柔軟な発想力や創造力を育むためのカリキュラム作りは長年のテーマである。これまで、学校法人ごとにユニークな手法を取り入れ、セールスポイントとしているケースがいくつもあるだろう。教科に囚われないプログラムを持つ国立小学校はその一例といえよう。

ここでは、わが国教育機関も参考にしているドイツの教育体系のひとつを紹介する。そこでは、子供の発育期間を7年ずつ3期に分けてそれぞれの時期にするべき教育について考えが明確である。最初の7年、つまり7歳前後の歯の生え変わる時期までは、子供は全感覚を駆使して周囲のものを模倣するという。こうすることで、意志や行動力を育むという考えであるが、この時期に英語や算数を教え込むと、逆に意志や行動力の弱い人間になってしまうという。次の7年、つまり思春期といわれる14歳前後までの時期までは、子供は実体験を介して世の中を理解するという。こうして豊かな感情が育つという考えであるが、この時期に代数計算などの抽象的な思考を強要すると、逆に感情の乏しい人間になってしまうという。そして、最後の7年間に入って、抽象的な概念や思考力を以って世の中についてのバランスの取れた認識を獲得することが可能になるというものである。こうした過程を経て、世の中に存在する様々な権威に盲従することの無い、独立と自由を獲得した人間、すなわち自由で柔軟な発想のできる人間になるというのである。

子供が自由な発想を学ぶ道のりの中で、比較的年少の時期に晒される抽象的事物は数字である。このため、初等教育の算数では、ローマ数字(I、II、III・・・)の生い立ちについて絵画を通じた作業で具体化した後に、計算は「おはじき」や「そろばん」のような道具を使って具体的なものとして学んでいく。この過程では、自由な発想を体現する面白い工夫がなされる。生徒のノートを見ると、その記述は「問題 解答」ではない反対の順序となっている。いや、もしかすると「問題 解答」ではあるが、わたしたちが「解答」と思っているものが「問題」になっていると言ったほうがよいかもしい。つまり、 $3 \times 4 = ?$  や、 $48 \div 4 = ?$  ではなく、 $12 = ?$  となっているのである。当然、生徒の解答は千差万別となり、 $100 - 86$  もあるし、 $1 + 1 + 1 + \dots$  というのも正解となり、自由な発想を経験していく。

欧州では、細則提示型の金融行政からポリシーベースの金融監督制度(Non-prescriptiveアプローチ)へ転換が図られている。自由な発想を学ぶという文化をベースに、あるべき姿を追及する方針転換といえよう。わが国に於いてもポリシーベースへと転換が図られるが、その過程では、自由な発想で各金融機関の特色が反映された経営・リスク管理の枠組みが構築されることを期待したい。

(石井知則)